

【学位論文審査の要旨】

審査結果の概要

公開審査は去る2月27日の14時から5号館の416演習室で行われた。

まず主査からは、当初の「博士論文作成計画書」で掲げられた研究題目と提出したタイトルとの異同が問題にされた。全体に論題が絞られたことになるが、当初のテーマがまだ隠然と生きていて、それにたいする関心ないし心残りが、論じるべき課題への集中をときに鈍らせているのではないか、しかも課題を限定することによって削られたいくつかのすぐれた論点は、識者にも評価されたものであったが、現論文にもそれらは発展的に活かしたのではないか、との問いかけがなされた。また他方で、論題の歴史的背景にたいする目配りが行き届いていることが高く評価された。副査からは、カント哲学の重要概念を自家薬籠中のものにしていくのは壮観であるが、議論をもう少し実証化し具体化する努力が必要であること、また頻用される「法則」という概念の使い方が多義的であるため議論の焦点が定まっていない箇所がみられるとの指摘があった。もう一人からは、問題を独自の視点からまさに独立独歩で切り開こうとする意欲と努力を多とするが、典拠に乏しい論点をめぐってやや偏狭な解釈に寄りかかり、どうしても踏まえるべき王道に背を向ける箇所が若干あると、さらに、意志を主題にしながらか「善意志」や「意志の自律」という基本問題への言及がないのも気になる、という忠告がなされた。これにたいし澁川はすべての質問に落ち着いて誠実に回答し、また論文でも十分に示されている深い学識を披瀝した。以上をもって審査員三名は、澁川優太に課程博士の学位を授与することで一致した。